PART3　二重否定・全部否定と部分否定

C 「二重否定」⇨ 強い肯定！

① **無不**～＝～ざル（ハ）なシ　／（～しないものはない＝必ず～する／皆～する）

② **非不**～＝～ざル**ニ**あらズ　／（～しないのではない＝非常に～する）

③ **非無**～＝～なキ**ニ**あらズ　／（～がないのではない＝～がたくさんある／いる）

④ **無非**～＝～**ニ**あらザル（ハ）なシ　／（～ではないものはない＝皆～だ）

⑤ **不可不**～＝～ざルべカラず　／（～しないわけにはいかない）

（例）　不可不察也。〔　　　　〕（　　　　）

⑥ **不敢不**～＝～あへテ～**ずンバ**アラず
（どうしても～しないわけにはいかない）

（例）　不敢不尽。〔　　　　〕（　　　　）

注　尽…「尽（つ）くす」。

⑦ **未嘗不**～＝いまダかつテ～**ずンバ**アラず
（今まで一度も～しなかったことはない＝いつも必ず～する）

問十　「未ダル二嘗テ不ンバアラレ悲シマ二石荊州之為リヲレ人ト也。」を現代語訳せよ。

注　石荊州…人名。
悲…あわれむ。

問十一　「莫二不レ観者一。」を書き下し文にせよ。

問十二　「人不レ可レ不二自勉一。」を全てひらがなで書き下し文にせよ。

問十三　「非二以レ無レ人而不レ芳。」とはどういう意味か。次の中から最も適切なものを一つ選べ。

a　見てくれる人がいてはじめて、芳しい花の存在が知られるわけではない。
b　見てくれる人が現れるかどうかで、花がその香りを変えることはない。
c　見てくれる人がいないからといって、芳しい香りを漂わせないわけではない。
d　人が見てくれることを求めて、芳しい香りを発するわけではない。

D 「全部否定」と「部分否定」（右が全部・左が部分）

①
常不～＝つねニ～ず／（いつも～ない）
不常～＝つねニ**ハ**～ず／（いつも～とは限らない）

②
必不～＝かならズ～ず／（必ず～ない）
不必～＝かならズ**シモ**～ず／（必ず～とは限らない）

③
倶不～＝ともニ～ず／（両方とも～ない）
不倶～＝ともニ**ハ**～ず／（両方ともは～ない）

④
復不～＝まタ～ず／（今回もまた～ない）
不復～＝まタ～ず／（二度とは～ない）…一度はするが二度としないの意味。

⑤
盡（尽）不～＝ことごとク～ず／（すべて～ない）
不盡（尽）～＝ことごとク**ハ**～ず／（すべて～とは限らない）

⑥
甚不～＝はなはダシク～ず／（ひどく～ない）
不甚～＝はなはダシク**ハ**～ず／（それほど～とは限らない）

問十四　「若(もシ)使(ムルモ)(レ)呪(まじなハ)(レ)臣(ヲ)、必(ズ)不(レ)能(ハ)(レ)行(フコト)」の解釈として最も適当なものを、次の中から一つ選べ。

ア　もし胡僧が私に呪術をかけても、かかるとは限らないでしょう
イ　もし陛下が私に呪術をかけても、かかるとは限らないでしょう
ウ　もし胡僧が私に呪術をかけても、かからないとは限らないでしょう
エ　もし胡僧が私に呪術をかけても、絶対にかからないでしょう

問十五　「未尽了。」を、すべて平仮名で書き下せ。現代仮名遣いでよい。

注　了…サ変動詞。

問十六　「不(二)復解(一レ)樹」を口語訳せよ。

注　解…（樹木の）株を分割する。

第3講　PART3　確認問題

①「無二思不一レ服。」の書き下し文と意味の組み合わせとして最も適当なものを、次の中から選べ。

ア　服せずして思ふ無し。―　心服せずに慕うことはない。
イ　思ひに服せざる無し。―　考えに心服しないことはない。
ウ　服せざる思ひ無し。―　心服しないという考えはない。
エ　思ひて服せざる無し。―　慕って心服しないことはない。

②「不レ可(カラ)レ不(ル)三蚤(はやク)自(ラ)来(タリテ)謝(セ)二項王(かうわうニ)一。」の解釈として最も適当なものを、次の中から選べ。

ア　早く自らやって来て、項王に謝罪することは決してありません。
イ　早く自らやって来て、項王に感謝しないこともありません。
ウ　早く自らやって来て、項王に謝罪しないわけにはいきません。
エ　早く自らやって来て、項王に感謝したくてしかたありません。

③ 「吾未二嘗不レ得レ見也。」をすべて平仮名で書き下し文にしたものとして最も適当なものを、次の中から選べ。

ア　われいまだこころみてまみゆることをえずんばあらざるか。
イ　われいまだかつてまみゆることをえずんばあらざるなり。
ウ　われいまだかつてまみゆることをえざるはなきなり。
エ　われいまだこころみてまみゆることをえざるにあらずや。

④ 「兎不レ可二復得一、…」の解釈として最も適当なものを、次の中から選べ。

ア　うさぎを二度とは得ることができず、…
イ　うさぎを常に得ることができるとは限らず、…
ウ　うさぎを今回もまた得ることができず、…
エ　うさぎをすべて得ることができず、…

⑤ 「其勢不倶生。」をすべて平仮名で書き下し文にしたものとして最も適当なものを、次の中から選べ。

ア　そのいきほひことごとくはいきず。
イ　そのいきほひともにいきず。
ウ　そのいきほひまたいきず。
エ　そのいきほひともにはいきず。

第３講　PART３　解答

二
C　⑤〔察せざるべからざるなり。〕（察しないわけにはいかないのである。）
⑥〔敢へて尽さずんばあらず。〕（尽くさないわけにはいかない。）

問十　石荊州の人柄を今まで一度もあわれまなかったことはないのである。
（石荊州の人柄をいつも必ずあわれむのである。）

問十一　観ざる者莫し。

問十二　ひと（は）みず〔づ〕からつとめざるべからず。

問十三　c

問十四　エ

問十五　いまだことごとくはりょうせず。

問十六　二度とは樹木の株を分割しない

第3講　PART3　確認問題　解答

〔解説〕

① 返り点に従うと「思」から始まるので、イかエ。「無不〜」は「〜ざル（ハ）なシ」と読み、「〜しないものはない」という意味。「思ひに」と読むのであれば、語順は「無レ不レ服レ思」となるので、イは不適。よって、エが正解。

② 「不可不〜」は「〜ざルベカラず」と読み、「〜しないわけにはいかない」という意味。書き下し文は「蚤（はや）く自（みづか）ら来たりて項王（かうわう）に謝せざるべからず。」となる。よって、ウが正解。

③ 「未二嘗不レ〜」は「いまダかつテ〜ずンバアラず」と読み、「今まで一度も〜しなかったことはない」という意味。文末が「也」なので、「ず」は「ざる」と活用する。よって、イが正解。

④ 「不復〜」は「まタ〜ず」と読み、「二度とは〜ない」という意味の全部否定となるので、漢字の語順に注意する。「復不〜」であれば「今回もまた〜ない」という意味の部分否定。書き下し文は「兎（うさぎ）復（ま）た得べからずして、…」となる。よって、アが正解。

⑤ 「不倶〜」は「ともニハ〜ず」と読み、「両方ともは〜ない」という意味の部分否定。「倶不〜」であれば「ともニ〜ず」と読む全部否定となるので、漢字の語順に注意する。よって、エが正解。

〔解答〕

① エ　② ウ　③ イ　④ ア　⑤ エ